



馬耳東風

人は誰しも拘束されることを嫌い、自分の意のままに行動したい気持ちを強く持っている。命令されてする仕事は面白くなく、なかなか気持ちが乗って来ない。子供の相手をしていると親から指示されたことなど無視して自分の興味の向くままに実に生き生きと行動する。最近の就活、端から見ているともっと主体性を持って自身の夢に向かって行動出来たら良いのと思う。いつの間にか情報にコントロールされているのか。高校の選択でふるいにかけて、卒業時に偏差値で評価され機械的に振り分けられて入った大学で、勉強する暇もなく就活で心身共に疲れ果てる多くの若者を見ていると痛々しい。画一的な既定路線に乗り、何十社ものふるいにかけて就職先が決まって行く今の就活、余りにも単線思考過ぎないかと疑問を感じる。これはインターネット（ネット）の普及が招いた弊害の一つとも思えるのだが、この問題は単に就活に限ったことでは無いようだ。今は物事を深く考えなくても、書物を漁らなくても社会・日常生活が送れるように、各種資格試験から、生活万端、終活に至るまであらゆる分野に関する膨大なマニュアルが画面、店頭から容易に入手でき、事細かに対処法を教えてくれる。ネットは人々に大きなチャンスと利便性を与えた点是否定できないが、便利さ故に人々に考える事、勉強する習慣を放棄させてしまったように思われる。調べ事を依頼しても、「それはネットで検索すればすぐ解ります」という返事が返ってくる。ネット上で得られる情報は全て正しいと錯覚し、それを金科玉条の如く信奉し

ているようだが、情報の信頼性を担保するものは何もない。個人が学んだり経験したことから築かれる自分の考え方・生き方さえ入り込む余地が無いほどネット・スマホ情報を行動指針として位置付けている人が多い。この便利さの裏に潜むものは、大衆が同時にその情報に接することで、某国のように無意識の中に言わば思想統制的に皆同じ方向を向かされる危険性である。ネット情報を基に行動することは言わば他人の考えに従うことで、それに振り回される付和雷同型人間の増殖は不気味な感じさえする。

世紀末の頃から、これからの時代、画一的な人間でなく多様な価値観を持った個性的な人間を育てる教育が重要であると言われてきたが、実態はむしろ逆の方向に向かっていく感がある。設定された評価基準に沿った教育、マニュアルに忠実な人間が高く評価される社会、創意が入り込む余地が無くなった。達成度に段階をつければ皆、上位を目指して、猛進する。しかし、その偏差値的な物差しは多くの場合、個人の能力の一部、例えるならばPCの記憶容量を評価しているようなものだ。保存されている記憶は有効に使えて初めて創造的能力を発揮できるのであって、応用できなければ単なる知識に過ぎない。高偏差値の関門を通過してきた若者の中には知識偏重型人間が多く、自尊心が強く、問題に直面したときそれを打開する問題解決能力に劣る傾向があるように感じる。かつて、英国の優れた社会保障制度を表して「揺りかごから墓場まで」というスローガンをよく耳にしたが、今の世の中、「揺り籠から墓場まで」全てがナビ人生と言えそうである。 (青)